

教 師 ノ ー ト

日付	2018年 2月18日
単元	サムエル記・1
テーマ	主は心を見る
タイトル	油を注がれたダビデ
テキスト	第一サムエル16章
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 第一サムエル16:7
AG 日曜学校教案参照箇所	

□導入

いよいよダビデ登場です！彼はどのようにして王になったのでしょうか？

※教師は先週と今週のテキストの間の箇所(11～15章)を必ず読んでください。特に、13:1～15と15:1～35で、サウルの墮落の様子を理解しましょう。彼は、自分が神に選ばれたこと、神の助けなしには立派な王にはなれないことを忘れ、高慢になりました。

□ポイント1 神さまはサムエルをエッサイのところに遣わされました(1－5節)

サムエルはサウルを王にしたことを悲しんでいました。預言者サムエルのことばを守らず、神さまの命令にも従わないようになっていったからです。サウルの心は、すでに神さま中心ではなく、自分中心になっていました。

そんなとき、神さまはサムエルに「エッサイのところにいきなさい。彼の息子たちの中に、新しく王になる者を見つけたから」と言われました。しかし、サムエルは「そんなことをしたら、サウルに殺されます」と言いました。すると神さまが、うまくいく知恵と命令をくださいました(2～3節)。そこで、サムエルは、神さまに言われたとおり、ベツレヘムに行き、エッサイと息子たちを、「いけにえをささげるので一緒に来てください」と言って、招きました。

□ポイント2 神さまはダビデを選ばれました(6－13節)

エッサイの息子たちのうち、エリアブを見て、サムエルは「確かに、主の前で油をそそがれる者だ。」と思いました。ハンサムで体格も立派で、しっかりして見えたのでしょう。しかし神さまは、「彼の見た目のカッコよさや、背の高さを見てはならない。新しい王に選ぶのはエリアブではない。私は人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、主は心を見る。」とおっしゃいました。

エッサイは、ひとりずつ、次々とサムエルの前に進ませましたが、どの息子も神さまが新しい王に選んだ人ではありませんでした。こうして7人の息子を見た後で、サムエルはエッサイに言いました。「子どもたちはこれで全部ですか。」エッサイは「まだ末の子が残っています。あれは今、羊の番をしています」と答えました。サムエルは「その子を連れて来なさい」と言いました。

エッサイは人をやって、その子を連れて来させました。それがダビデでした。ダビデは元気そうで、目がキラキラ輝く少年でした。「血色の良い顔で、目が美しく、姿もりっぱ」でした。その時、神さまはサムエルにおっしゃいました。「さあ、この者に油を注げ。この者がそれだ。」

そこで、サムエルは油の角を取り、兄弟たちの真ん中でダビデに油を注ぎました。神さまに選ばれ、神さまに仕える人として聖別されたことのはるしです。「主の霊がその日以来、ダビデの上に激しく下った」と書いてあります。ダビデが実際に王になるのは、まだまだ先ですが、その日から、彼は神さまに選ばれた器として用いられていきます。

□ポイント3 ダビデはサウル王に仕えました(14-23節)

その頃、もはや神さまの霊はサウルを離れてしまいました。代わりに悪い霊が彼をおびえさせました。そこでサウルの家来たちは上手に立琴をひく者を捜して、音楽でサウルの具合がよくなるようにしようと考えました。

すると、ひとりの家来が「私はベツレヘム人エッサイの息子を見たことがあります。琴がじょうずで勇士であり、戦士です。ことばには分別があり、体格も良い人です。主がこの人とともにおられます。」と言いました。ダビデのことです。

ダビデはサウルのもとに来て仕えるようになりしました。サウルはダビデをとて気に入り、愛しました。悪い霊がサウルに臨むたびに、ダビデは立琴を手にとって弾きました。そうすると、サウルは元気を回復して、良くなり、悪い霊は彼から離れました。ダビデは立琴を演奏するだけでなく、サウルの道具持ちにもなりました。

☞主からの悪い霊・・・神から出るのが悪であることはあり得ない。しかし世にある悪い霊も、結局は神の支配下にある。神が、聖なる霊をサウルから取り去られたとき、代わりに悪い霊が入ることも、神にとっては想定内だった。そういう意味で、悪い霊も、神の主権のもとに、サウルに入ることができたと言える。

□結論 神さまは、ダビデをイスラエルの王に選びました

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

1. 神さまは心を見てくださるお方ですから、私たちも、外見で自分や相手を判断しないようにしましょう

神さまは、外見でなく、私たちの心を見てくださっています。ですから、身長や顔立ちなどはもちろん、みなさんの成績表や運動会の順位を見ているではありません。みなさんも、人をうわべで判断しないようにしましょう。まず自分自身の外見や能力を見て、クヨクヨしたり、自慢したりしないようにしましょう。そして、お友だちに対しても同じです。教会に来ているとか、お祈りが上手にできるとかではなく、心がイエスさまに喜ばれることが大切なのです。

2. 神さまは私たちの心を見てくださるお方ですから、神さまに喜ばれる心になろう

サムエルがエッサイの息子たちを招いたとき、ダビデはその場に来ることも必要と思われず、みんなの代わりに羊の番をさせられるような、小さな末っ子でした。しかし、神さまはダビデの心を見て、王に選ばれました。では、神さまは、どんな心を見て喜ばれるのでしょうか？(ダビデの心はどんな心か？第一サムエル16:18、詩篇23・51・103篇などを读もう)何でもご存じの神さまは、私たちの心がカンペキでないことはご存じです(エレミヤ17:9、きたない思い・ズルい考え・ねたみ・意地悪・高慢などがある)。それでも愛を持って心を見てくださるのですから、怖がることはありません。すぐに悔改める正直な心、弱くても神さまに頼る心などが喜ばれるのです。何でもご存じの神さまが心を見てくださるのですから、心を隠そうとすることは無駄です。どんな心でも神さまにオープンにしましょう。